

学校・子どもたちをめぐる課題の解決に向けて、今年度も学校運営協議会がスタート 子どもたちの学びの充実に、地域の人材や素材を積極的に活用へ

令和5年度がスタートして1ヶ月余りがたちました。各学校では、「めざす子どもの姿」や「子どもたちに育てたい力」を念頭におきつつ、校内で様々な教育活動に、積極的に地域の人材や素材を活用しようと計画・準備が進められたり、まちづくりや地域づくり、家庭支援等を課題として、校外で地域の人とともに子どもたちの居場所づくりの活動を通して、学習支援や体験活動が工夫されたりしようとしています。

子どもたちをめぐる課題や育てたい力を学校が地域とともに共有し、学校・家庭・地域が自分事として様々な活動に取り組む必要があります。

いよいよ、今年度もコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の活動がスタートしました。

今年度は、4月25日(火)に第三中学校区を皮切りに、4月27日(木)に第一中学校区、そして、5月18日(木)に第二中学校区学校運営協議会の第1回目が無事に開催されました。

中学校区によっては、学力向上という課題に、具体的な実体験を伴った学びを積極的に活用するために、地域とのつながりを意識できるような教科の学習や総合的な学習の時間を工夫したり、年間を見通した地



▲一中校区学校運営協議会第1回会議 岩本会長
域人材の活用について、学校運営協議会で説明がされたりしたところもありました。

また、子どもたちの生活拠点である家庭への支援のあり方について、今年度は何ができるか検討していきたいという中学校区もみられています。

いずれにしても、学校運営協議会で活動を展開しようとする、「何をするのか」に目がいきがちですが、一つ一つの具体的な地域学校協働活動(学校支援の活動・休日の教育活動・放課後の子どもの居場所や学習支援・地域活動に子どもたちが大人と一緒に参画する等)が子どもたちのどんな育ちにつながるのかを、学校も地域もしっかりと議論して、とりかかることが大切です。

また、活動と一緒に加わってくださる関係団体や個人の方にも理解を図っておくことも大切です。



▲第1回二中校区学校運営協議会の様子

今年度は、新型コロナウイルスの取り扱いが5類に引き下げられたことにより、これまで、制限を余儀なくされていた熟議の開催や、地域の中での小中学生の活躍の場も見られることが多くなるのではという期待もあります。

早速、市民運動会では、中学生のボランティアが150名を超える参加も見られた中学校区もありました。地域の主催者は、コロナ禍で地域の方も子どもたちも人と人がつながる場や気持ちが薄れていた中で、小中学生が地域の人たちとのつながる機会になったことを大変喜んでいらっしゃいました。

こうした取り組みについて、学校運営協議会で、子どもたちが、総合的な学習や教科の学習に地域の人が参画されたり、地域活動に加わったりすることで、地域の人とのつながり意識や自己肯定感を高め、地域への愛着を深めることにつながるといった、話題も出ていたようです。

早速、5月15日(月)の市民運動会の振替休業日に、三中校区の渡・外江公民館で、公民館長さんや地域の方の協力により、子

どもたちが公民館という場や公民館隣接施設、広場等でグランドゴルフやニュースポーツ「ボッチャ」で嬉々として楽しんでいました。それにかかわる地域の方々の笑顔も印象的でした。

今回の取組は、子どもの居場所づくりの企画として、地域の人たちが協働・連携をしながら、子どもたちはもちろん、それにかかわる大人も含めて、地域あげての子育て環境をつくっていかうとされた取組です。各中学校区での今後の様々な地域学校協働活動に期待が膨らみます。



▲渡公民館での子どもたちと地域の人との交流



▲外江公民館での子どもたちと地域の人との交流